

令和7年1月31日開催「日伯学長会議」オープニングセッション

林大使 御挨拶

広報文化班

カルロス・ジルベルト・カルロッティ・サンパウロ大学学長 (Mr. Carlos Gilberto Carlotti, Rector of University of Sao Paulo)

永田恭介筑波大学学長 (Mr. Kyosuke Nagata, Rector of University of Tsukuba)

本日参加されている日伯双方の大学関係者、伯政府関係者の皆様

本日は、記念すべき第1回目の日伯学長会議にお招きいただき、ありがとうございます。

過去を振り返ると、ブラジリアを訪問した筑波大学の永田学長に、この学長会議の構想をお話したのは、2023年11月のことでした。それからわずか1年余りで第1回目の会合が開催されることは、望外の喜びです。

今年は、日本ブラジル外交関係樹立130周年を記念する「日本ブラジル友好交流年」です。この記念すべき年に、本日こうして、中南米一の最高学府であるサンパウロ大学において、本会議が開催されることを大変うれしく思います。特に、本会議の重要性に共感し、両国の学術交流の活性化に強力なイニシアティブを発揮していただいた永田筑波大学学長及びカルロッティ・サンパウロ大学学長をはじめ、本会議の実現に向けて御尽力された全ての方々に、心より感謝申し上げます。

また、今年はルーラ大統領を日本にお迎えすべく準備をしていますが、学術や教育分野での関係強化は優先事項の一つです。2週間前に、ブラジルのカミロ・サンタナ教育大臣と大統領の訪日について個人的に協議しましたが、大臣もこれらの分野での日本との協力の深化に高い関心を示していました。

本日は、サイバーセキュリティ・AI (cybersecurity and AI)、災害対応 (disaster management)、気候変動やクリーンエネルギー (climate change and clean energy) 等、グローバル課題における両国の研究協力の可能性について議論されると伺っています。これらはいずれも、日伯政府関係においても重要な協力分野です。

企業との連携も重要です。たとえば、サンパウロ大学は、トヨタをはじめとする民間企業と共同で、エタノールから水素を製造するプロジェクトを実施しており、フレイタス・サンパウロ州知事も支援しています。AI技術の活用では、日本のスタートアップ企業が、学术界と協力して、スマート農業や治安対策に応用する動きがあります。

本日は、このような産官学の連携も視野に、参加者の間で今後の共同研究や人材交流につながる議論がなされることを期待しています。今年は、第6回「科学技術合同委員会」の開催も予定されています。学术交流と科学技術協力のシナジーを確保できるように、日本政府として最大限努力していく所存です。

本日の二つ目の議題は、学生交流です。日本政府は、近年では、毎年60～80名のブラジル人を国費留学生として日本に受け入れています。更には、2023年には、これらの奨学生を含め総計約760名のブラジル人学生が日本の高等教育機関で学んでおり、この数はラテンアメリカ諸国では第1位です。これらの元留学生は、ブラジル各地で日伯の学术交流を支える重要な人的ネットワークを形成しています。この貴重な人材ネットワークと密に連携し、引き続き、留学制度の改善や優秀な国費留学生の発掘に努めたいと考えています。

最後になりましたが、本日の会議の成功を祝し、また本日の会議が、日伯関係の未来を築く重要な役割を担う若者を含め、両国の学術分野における更なる協力の強固な礎となることを祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。